



校長室だより 5月

2020(令和2)年5月8日

大阪市立堀江小学校

校長 藤原 和彦



校長室だよりは、今月号もWEBで配信するのみにしました。学校が始まつていれば、学校の様子や子どもたちから感じたことや考えたことなども書くことができるのですが、主役がいない中ではなかなか難しいですね。

前号を書いてから一ヶ月が経ちました。臨時休業が月末まで再延長され、依然として出口（学校再開という点では入口でしょうか）が見えない状況が続いています。今、学校では、一日も早く安心して子どもたちが学校に通える日が来ることを願いつつ、その日に備えて準備をしています。そんな中、昨日は、少しでも子どもたちとつながろうと、保護者メールを使って、学級担任から子どもたちへメッセージを送りました。本当は、電話などで直接お話しすることができれば良かったのですが、児童数の多さから困難なためメールでの配信としました。子どもたちには、自己紹介文を読んで、まだ見ぬ担任の先生を想像しつつ応援メッセージを励みに元気を出してほしいと思います。

そして、来週からは登校日が始まります。教室に入る人数に制限があることから学級を3分割して、さらに奇数学年の日と偶数学年の日に分けることで、学校内にいる児童の数を1/6に減らします。またマスクの常時着用や十分な換気を行うとともに、児童が登校する度に教室やトイレなどの消毒を行います。



感染予防対策は精一杯行うつもりです。しかし、何事にも完璧はありません。心配なことや不安なことがあれば、無理をして登校せず、学校までご相談ください。

「疾風に勁草を知る」

今から2000年近く前の中国、後漢王朝の初代皇帝となった光武帝が初めて兵を挙げたときのことです。厳しい戦いが続く中で旗色が悪くなってくると、帝に従っていた家臣たちはみんな逃亡していました。しかし、功臣の一人である王霸だけは、最後まで帝のもとに残りました。その時、帝が王霸に言った言葉が「子独り留まりて努力す、疾風に勁草を知る。」（後漢書・王霸伝）であったと伝えられています。

「疾風」（しつぶう）とは、速く激しく吹く風のことを言います。そして、「勁草」（けいそう）とは、風雪に耐える強い草のことです。「疾風に勁草を知る」とは、強い風が吹いたときに初めて、それに負けない強い草を見分けることができることから、人は、困難や試練に直面したときに、初めてその人の意思の強さや節操の堅固さ、人間としての値打ちがわかるのだという意味があります。

人気のない街の様子や誰もいない校舎を見ていると、疾風というよりは一見嵐のような気もありますが、今世界はコロナという嵐の最中にあります。学校に来ることができない子どもたち、子どもたちを迎えることができない教職員たち、ご家庭ずっと子どもたちの監護を続けていただいている保護者の皆さん、医療従事者をはじめ感染リスクの中でお仕事を続けておられるエッセンシャルワーカーの方々、また逆に経済活動が十分にできない方々など、あらゆる人が、この疾風に折れることなく耐え抜き、勁草になれることを願っています。そのためにも、一人一人が正しい情報をもとに、今できる最善の行動をとりつつ頑張っていきましょう。